島根県全特別支援学校調査結果（第2回）

島根県内には12校の特別支援学校（すべて県立）があります。伊藤忠記念財団は、平成24年に続き、全国で唯一、全校にマルチメディアDAISY図書を配布している島根県をモデルに調査を実施しました。平成25年も11月～12月にかけて、アンケート用紙を郵送配布・返送してもらう方式で調査を実施し、12校全校から回答を得ました。

調査のねらい

障害の重さ、学年（幼～高）にとらわれず、広く障害のために読むことが困難な青少年支援のポイント（キーワード）を調査する。これによって、より事業の有効性を高めることを目指す。

- マルチメディアDAISY図書の有効性を確認する。
- マルチメディアDAISY図書の製作のポイントである選書や内容について調査する。（現在の作品の評価）
- 製作、配布以外に求められる活動を調査する。
- 利用例（状況）の収集と発表をする。

※（□）内の数字は、アンケートであがってきた人数を示す。

1. マルチメディアDAISY全般について

①財団が配布するまでマルチメディアDAISYを…

1）利用していた（1）
2）存在は知っていた（2）
3）知らなかった（9）

②マルチメディアDAISY規格は在校生の読書に…

1）役立つ（7）
2）少し役立つ（4）
3）あまり役立たない（0）
4）役に立たない（0）
5）わからない（1）

その理由として、

「1）役立つ」では、

- 自分で本を読むことが難しい児童生徒たちが一人でも読書を楽しむことができる。
- 読んでいる場所の色が変わるので、児童生徒が文字や言葉を意識して読むことができる。
- 音声で読み上げるので、その言葉をまねて言葉や話を楽しむことができる。
- 通級指導教室の先生が、読みに困難のある児童に対して使用しており、とても役立つと言っておられた。
- 自分では、本を手にとって読むことが困難な子どもたちにとって、音声と一緒に、文字・画像が写し出されるのでわかりやすい。
- 自分で本を読むことが難しい児童生徒にとって、耳で聞いたり、画面で見たりすることで、一人で楽しむことができる。
- 肢体不自由の児童生徒や、読みが苦手な児童生徒が在籍しており、そのような実態の児童生徒も、読書を楽しむことができる。
- 見えづらい児童生徒が、音声で確認しながら文字を追って読むことができる。

◦パソコンで視聴できるため、活用しやすい。
◦読んでいるところを掲示でき、読む速さが変えられる。
◦絵が拡大でき、大人数でも読み聞かせができる。

「 2）少し役立つ」では、
◦文字を目で追いながら朗読してもらえるような感じなので、子どもに合った内容や程度の本であれば役立つと思う。
◦紙媒体のものよりも、このようなメディアの方が興味を持つ児童生徒がいる。
◦パソコン操作ができる生徒には有効。
◦パソコンを用いて利用しており、人による読み聞かせとはまた異なった興味を示しているように見える。
◦書籍と比較して、文字を大きくできたり、色をつけることができたりするので、読みやすそうだ。

「 5）わからない」では、
◦「役立つ」であろうという気持ちだが、しっかりと活用できていないことから「わからない」とした。「図書」（文庫）と「電子図書」があったとき、「電子図書」であれば、パソコン等設定すれば、自分で図書にふれられる、ということはあるかと思うが、実際、そういった設定をすることなく、読み聞かせ等で行うことが多いと思う。

③マルチメディアDAISY規格で有効と考える項目では…（複数回答あり）
◦繰り返し利用できる　(11)
◦文字の拡大　(9)
◦読んでいるフレーズに色がつく　(8)
◦読む速さを調整　(5)
◦背景色の変更　(3)
◦操作が簡単　(3)
◦プレクストークやiPadなど様々な端末で利用可能　(2)
◦ナビゲーターで読みたい場所を選択　(2)

2. わいわい文庫の利用状況について

①わいわい文庫の保管先
◦図書館保管　(9)
◦担当教諭保管　(3)
◦図書室以外の資料室　(0)
◦行方不明　(0)

②わいわい文庫の活用（複数回答あり）
◦授業　(4)
◦休み時間等の自由利用　(6)
◦家庭への貸し出し　(0)
◦その他　(3)
◦使用していない　(2)

③授業活用例
◉利用作品　『はらぺこあおむし』『11ぴきねこ』シリーズ
中等部(訪問) ／国語／個別／読み上げの機能…スピードの調整ができて利用しやすかった。授業…余暇へつなげていきたくて定期的にいろんな話を楽しんで利用している。

◉利用作品　『はらぺこあおむし』『はなさかじい』
高等部（肢体クラス）／生単／集団／本の紹介として、大型テレビにつなげて利用した。文字があるものよりも画像だけのもの(紙芝

居風)を利用した。
効果）大型テレビを通して見ることで、視線が向きやすく、興味をもっている様子が見られた。読み上げの機能はスピードの調整が簡単にできてよかった。

◉利用作品　『はらぺこあおむし』『うらしまたろう』など
小学部／国語／個人／教室　iPadを使用
効果）読むことが苦手な児童でも楽しむことができたが、字が多く絵が小さいため、読みの練習をするには難しかった。

◉利用作品　『はらぺこあおむし』
高等部／国語／高2生徒（2人）／音声の後に続けて読んだ。
効果）文字だと「みっつ」を「みつつ」と読み上げていた生徒が、音声の後に続けて読むと「みっつ」と正しく読むことができていた。

◉利用作品　不明
通級／国語／通級指導で使用

④休み時間の利用や貸し出しをするために行った準備や利用上のルールと感じられた効果について

- DAISY図書は、図書館に置いてあるので、授業等で使うことも可能だが、実際にはまだあまり使われていない。今年度、読書週間を利用し、昼休みに紹介もかねて流したところ、児童、生徒だけでなく、教職員も見に来てくれた。その時の感想等から、まだまだ、こちらからの発信が必要であるということを感じた。また、その時の声として「今、“ iPad ”など便利なものがたくさん出ている。その中で、これらDAISY図書をどう利用すると有効なのか、どんな魅力があるのか、少し弱いところがある。」という意見をいただいた。そのあたりのところを、図書担当としてももっと実際どうなのか、伝えられるようにしておきたいと思った。そういった考えを受け止めたうえで、アピールできるものとなってほしいと思った。
- 図書館で利用しやすいように再生用のパソコンを設置し、テレビにつなげて見られるようにした。余暇の一つとして、休み時間に図書館に来てDAISY図書を鑑賞し、読書(内容)を楽しんだり、声に出して言葉や周りの人との会話を楽しんだりすることができた。
- 図書室にDAISY用のパソコンを設置。図書室整備員さんがおられるときに使うよう定めた。しかし、児童がすすんで使う姿はみられず。
- 子どもたちが利用しやすく活用していくためには、まずは学校司書、教職員への周知からはじめた。
- 担当が保管し、使用希望があった時には貸し出しをしている。また、図書館の行事で利用している。
- 読書週間を利用して、鑑賞会を開き、個々の子どもたちの実態に合わせて、利用した。
- ルールとしては、図書館の本の貸し出しと同じ手続きをとれるようにしている。
- 児童、生徒への貸し出しは、現段階では行っていない。
- 教育相談での利用も行っている。

⑤利用されていない理由

◦選書が在籍児童生徒にふさわしくない (0)
◦電子図書の利用は考えていない　(0)
◦今後検討していきたい　(2)
◦その他→マルチメディアDAISY図書を見るための、児童生徒用パソコンがない。

3. わいわい文庫の内容について

①小冊子「わいわい文庫活用術」について

1)　活用の参考になった　(6)
2)　少し参考になった　(4)
3)　あまり参考にならなかった　(1)
4)　参考にならなかった　(0)
5)　見ていない、手元にない　(1)

その理由として、

「1)　活用の参考になった」　では、
◦iPodやiPadでの利用ができると、もっと手軽に使えるなと感じた。
◦いろいろな活用方法があることがわかった。
◦他校の様子がよくわかる。
◦具体的に示してある。

「2)　少し参考になった」　では、
◦具体的な活用の方法が書いてあり、活用のイメージがもてた。

「3)　あまり参考にならなかった」　では、
◦全教職員が活用できれば、もう少し参考になるかもしれない。

②製作した本の表紙のポスターについて

1)　活用している　(3)
2)　活用していない　(7)
3)　見ていない、手元にない　(2)

その理由として、

「1)　活用している」　では、
◦児童生徒が作品を選ぶ時に、絵(表紙)を見て選ぶことができて良い。
◦どんな作品があるか、視覚的にわかりやすく見ることができて良い。
◦児童、生徒、教員にとてもわかりやすく、よいアピールになっている。
◦貼っている。

「2)　活用していない」　では、
◦添付してあったことを忘れていた。
◦適した掲示場所がない。

③子どもたちに人気のある作品

『はらぺこあおむし』(3)
◦映像がわかりやすくきれいでよく見る。
◦よく知っている話は人気があった。

『ケーキ・ケーキ・ケーキ』(2)
◦わかりやすく、繰り返しがあり、いろいろな実態の児童、生徒がよく見ていた。
◦だんだん見えてくるしかけがおもしろいようだ。

『わにさんどきっ　はいしゃさんどきっ』
『やおやさんでおかいもの』
『おとうさんはウルトラマン』
『こぐまちゃんおはよう』
『おおきなかぶ』
『11ぴきのねこ』シリーズ

その他――
◦定番の絵本がわかりやすく、活用できた。
◦特にわからない。

④選書、音声等お気づきの点や、製作を希望される作品について

- 『学校の怪談』シリーズ、神話、子ども新聞のような時事ネタ。社会科の授業でも使えそうな内容（歴史ものなど）。
- 国語の教科書の内容があると良い。『サーカスのライオン』『ちいちゃんのかげおくり』など。
- 小学校の国語に載っている物語を製作していただけると授業でもっと使えると思います。
- 小学校高学年から中学生向けの読み物や、理療科関係の書籍があると良い。
- 楽器の図鑑のようなもの。楽器と楽器名と音が入っていると良い。
- 紙芝居風の作品がもう少しあると良い。
- 電話のかけ方。
- 特になし。

家庭での利用のモニタリング調査結果（第2回）

1.調査のねらい

◦保護者が感じるマルチメディアDAISY図書の効果を調査する。
◦保護者が希望する作品、家庭での読書のために希望する作品を調査する。
◦家庭での利用例（状況）の収集とその発表をする。

2.モニタリング調査概要

平成24年8月：
　モニタリング希望者と大阪市立中央図書館などで面接をおこない、著作権法について説明し、マルチメディアDAISY図書を渡す
平成24年12月：第1回調査
（対象21、回答21）
平成25年12月：第2回調査
（対象23、回答21）

※（□）内の数字は、アンケートであがってきた人数を示す。

3.調査結果

①読書に利用した端末（複数回答有り）
◦パソコン　（16）
◦iPad　（6）

②利用頻度は、どの程度ですか。

利用数と時間	件数
毎週　7回 各30～60分	1件
毎週　2回 各30分	1件
毎週　1～2回 各5分	1件
毎週　1回 60分	2件
毎週　1回 30分	2件
毎週　1回 20分	1件
毎週　1回 10分	1件
毎月　3回 各20分	1件
毎月　3回	1件
毎月　1回 各30分	1件
毎月　1回 各20分	2件
二か月 1回 各30分	2件
ほぼ利用していない	5件

合計 21件

ほぼ利用していない理由（複数回答あり）
◦最初は利用していたが、あきたようだ　(1)
◦興味のある本を全て読んでしまった　(1)
◦子どもが興味のある作品がなかった　(0)
◦その他　(4)
◦現在パソコンではWii Fit Plus等の画像を見ることに固執しており、開くとそちらへ

集中がシフトしてしまい、なかなか別のことを入れることが難しい。
- 支援学校中等部に今春より入学し、新しい環境の中でバタバタしてしまい、なかなか利用できていない状況。
- 6年生で忙しい。なかなか時間がとれず残念。
- 親がパソコンをさわらせなかった。（「二か月に1回」「1回あたり30分」に回答の方）

③利用の形態
- 保護者が声をかけ、保護者といっしょに読書をする （13）
- 保護者が声をかけ、子どもが一人で読書をする （7）
- 子どもが自発的に、一人で読書をする（2）
- 子どもが声をかけ、保護者といっしょに読書をする （1）
- その他――姉妹で仲良く読んでいる

④お子さんが読書に取り組むために、工夫をしている点
- 場面で、だれ、どこ、何、どうした、をノートに書き出して、くり返して見た。（高3男子）
- 本の表紙をポスターにして頂けたので、「どれ見るー?」と言うと興味を示した。（小3男子）
- テレビを消す。（小1女子）
- パソコンをいつでも使えるようにしている。（小1女子）
- 本編だけがサッとでて、おわるようにした。（高3男子）
- あきかけたら、声かけをした。（小5女子）
- まめに声をかける。（小5男子）
- 読書後、振り返りをすること(聞き取りクイズ等)。（小4男子）
- 一緒にパソコンを見て、読んだり、楽しんだ。家にある本を一緒に見ることもあった。（小4男子）
- ヘッドフォンで落ち着いた(静かな)環境で使用させた。（25才男性）
- iPadを使用しているが、本人が興味をもちそうなものを選んで入れている。（4才女子）
- 「おもしろい本があるよ」と話した。（小3女子）
- パソコン端末＝遊び（ゲーム）なので、学習の一部として半ば強制的にすすめた。（小3男子）
- ゲーム前に見てみようか、とか、学校へ持たせ、別の場面での利用を試してみた。（小4男子）
- iPadを置いておく。声かけ。（小2男子）

⑤読書時に画面表示などの変更は行いましたか（複数回答あり）
- 行っていない （13）
- 文字を拡大した （4）
- 音声を速くした （5）
- 音声を遅くした （3）
- 音声を消した （0）
- 文字、ハイライト、背景色を変更した（3）

文字色
- ・黒色 （3）

ハイライト色
- ・ピンク色 （1）
- ・水色 （1）
- ・青色 （1）

背景色
- ・白色 （2）
- ・黄色 （1）

⑥お気に入りの作品（複数回答あり）

作品名	数	収納場所
11ぴきのねこ　シリーズ	3	2013年Ver.1
11ぴきのねことあほうどり	1	2013年Ver.1
はらぺこあおむし	2	2013年Ver.1
わたしのワンピース	1	2013年Ver.1
王さまと九人のきょうだい	1	2013年Ver.2
はじめてのキャンプ	1	2013年Ver.2
りくちゃんのいちごジャム	1	2013年Ver.2
マザーツリー	1	2013年Ver.3
北の動物園できいた12のお話	1	2013年Ver.3
魔女の宅急便	1	2013年Ver.3
声が美しい鳥が多い山野の夏鳥	1	2013年 Ver.Blue
古都　京都の旅	1	2013年 Ver.Blue
ケーキ・ケーキ・ケーキ	1	2013年 Ver.Blue
うらしまたろう	1	2013年 Ver.Blue
わにさんどきっ はいしゃさんどきっ	1	2012年Ver.1
ノンタン にんにん にこにこ	1	2012年Ver.1
空色バレリーナ	1	2012年Ver.2
星と星座の伝説　夏	1	2012年Ver.3

その他――『ひろしまのピカ』などは親が読ませたい本として入っていてとてもいいと思います。

4.利用の効果

①これまでに比べて、読書時間や読書への意欲に変化を感じますか。

- 向上している　（10）
- 変化は感じない　（11）
- 減少している　（0）
- 無回答　（0）

②保護者の方が感じられたことを、自由にお書きください。

◉「向上している」の回答から

- 今までは、本だと自分のペースでめくることにこだわり、きちんと読書ができなかったのですが、パソコンの前で最初から最後まで聞いて見ています。ただ、パソコンの関係か声が小さく、パソコン本体で大きくすると、雑音のような音も大きくなり、聞きづらいです。それと、パソコン操作が不慣れなため、「作者○○…」のところをとばすことができず、次のお話に行く前に集中がきれてしまうことになり、長く続けることができませんでした。（自閉症　高3男子）
- 発達障害の子たちが、このような機会で、パソコンに少しでも触れ、読むことへの興味が前進したと思います。（知的障害 小6女子）
- ひらがなが読めるようになり、自分でもハイライトと一緒に読むことができ楽しいようです。（広汎性発達障害　小1女子）
- 通常の本は全く見向きもしないため、読書は非常に敷居の高いものでした。マルチメディアDAISY図書をiPadで見せると、読書への興味を示すようになりました。大きな進歩（成長）です。（学習障害　小6男子）
- iPadを利用する時間が増え、全ての作品を読み、本人がインターネットで調べたり、作者を検索したり、漢字を検索したり、読むことが増えました。国語の文章題や読解力が向上しました。4月から、学校での利用許可が出たので、学校でもマルチメディアDAISYを利用しているので、休み時間の過ごし方が効率的になりました。姉妹で仲良く読んでいます。電車の中や移

動中や待ち時間にも読んでいます。読むことを幸せに思っているようです。（弱視・脳性麻痺・アスペルガー症候群　小3女子）

◦操作に慣れているおかげで、マルチメディアDAISY教科書の申請も気楽にできました。今後進学にあたり、ますますマルチメディアDAISY図書にお世話になると思います。モニターをさせて頂けてよかったです。（LD・ADHD　小5男子）

◦読書の声かけはまだまだ親からですが、読書中の集中力は以前より向上し、内容理解も深まっていると感じます。読書を自らの喜びや学びにつなげるため、継続していきたいと思います。（脳性麻痺など　小4男子）

◦週に1回の図書の時間が嫌で、本は読めないから絵しか見ていない娘ですが、マルチメディアDAISYは大好きで、毎日利用しています。時間を決めなかったら何時間でも読んでいるくらいです。今は学校の図書室にDAISYがあればいいのにと言うほどマルチメディアDAISYに夢中です。（LD　小1女子）

◦読書が好きではないようで、マルチメディアDAISYを使うことは少なかったです。読み書きには問題がない様子ですので、教科書の音読はできています。家はインターネットがつながる環境にあるので、自由にYou Tubeなどを見てしまい、そちらにどっぷりはまってしまっています。想像力が乏しい傾向があるためか、読書があまり進みませんが、マルチメディアDAISYを使うと、声で聞こえてくるので、少し読書に興味をもっていたように思いました。数冊、自分で選んで読み進めていました。（高機能自閉症　小2男子）

◦成人期の本人にとっては、余暇の一つとして、読書の広がりができたように思います。好きな絵本が、文字と音声と共に楽しめ、愛用しています。（自閉症　25才男性）

◉「変化は感じない」の回答から

◦読書時間は変わらないが、いろんな本を読んでみたいという意欲にはつながったと思います。（広汎性発達障害　小5女子）

◦今、小学校に行っていて、なかなかゆっくり見る時間がないので、教科書の国語にある文がのっていれば、音読として一緒に読めたり、目や耳から内容が入っていれば、クラスでの授業も受けやすくなるように思います。学校での利用がされやすいと思います。（ダウン症　小4男子）

◦まだ1才5ヶ月なので、好き嫌いはないようですが、画像をよく見て喜んだり、さわろうとしたりしています。（ダウン症　1才5ヶ月男子）

◦本人がひらがなも理解できるようになり、読む声が好きになったようで、意欲も出てきています。想像力に欠けるので、長いお話にはなかなかついていけないようです。好きな作品は何度も何度も見てくれました。親の誘導力を頑張らないと…と思います。（ダウン症　小3男子）

◦利用頻度が少ないことが原因ですが、変化は今のところ感じない。学習や読みに関して本人のやる気がなくなっている状態での取り組み方が難しい。パソコンやiPadの端末でもっとできるんだと本人が理解して、自発的に取り組めるようになるまで、気長に待とうと思う。とくにiPadの操

作を子ども向けに教えて頂けるような機会があればいいなと思っています。（ディスレクシア　小3男子）

◦何度か読んだ本は、音声に合わせて本文を読み上げたりしています。好みの本があると、そればかり選びます。（肢体不自由　4才女子）

◦声を合わせて読むことで、他の本を音読するのも、声が以前より出ているように思われる（自閉症　高3男子）

◦今夏は、本人の興味をDAISY図書に向けるのが少し難しかった（本人の中で、パソコン=You Tube画像!!になってしまっているので…。しかもいつもパターンが決まっていて同じのを同じ順番で延々くり返し…）。パソコンの使用法に関しては今後も取り組まねばならない大きな課題ですが、なんとかマルチメディアDAISY図書をはじめとする他のことにも興味をつなげていきたい所です。ただ、本の表紙をカラーのポスターにしていただいたのはすごく助かります。本人にとって、それが一番分かりやすいからです。また、You Tubeの映像を通して、電車、新幹線に興味が出てきているので、まずはそのあたりからもつなげる工夫をしていきたいです。（広汎性発達障害　小4男子）

◦比較的文章を読むことに苦痛を感じないようになったので、自身で読みたいようです。（読み書き障害　小5男子）

3.作品の課題と希望

①作りについて

◦絵や字の大きさで目の追い方が違ったり、気持ちの入り方も違うように思いました。

◦前回よりとっても聞きやすくなっていた。機械音から人の温かさへと変化が感じられた。

◦VODをメインに読んでいました。read to Goはよくフリーズしていました。

◦声をもっと大きくしてほしい。

②希望する作品

◦国語の教科書に載っている作品（ごんぎつね、大造じいさんとガン など）

◦小学校に載っているごんぎつねやきんのねこなど

◦もう少し高学年向きの本があれば、なおよかったです

◦かいけつゾロリ　(2)

◦ノンタン

◦ギリシャ神話

◦不思議の国のアリス

◦ルルとララのシリーズ

◦図鑑

◦伝記（小学校低学年向け）

◦料理やスイーツの作り方

◦きょうのおはなしなあに（ひかりのくに）春・夏・秋・冬

◦「ともだちや」シリーズ（偕成社）…子どもが小学生のとき好きだった絵本です

◦「だるまちゃん」シリーズ（かこさとしさん）

◦「0.1.2えほん」シリーズのようなリズミカルな本

◦五味太郎さんの本

◦ぐりとぐら

◦林明子先生の本

◦十人十色のカエルの子

◦100かいだてのいえ

◦名作集等のシリーズ

③お気づきの点

◦ウィンドウズ8など、新しいパソコンにも対応できるといいと思います。

◦聞きながら目は先を読む（図・イラスト・文字）ことがあり、モニターで表示しているより先を見ていると、DAISYが読むところに引き戻されるので、そこが改善されるといいなと思いました。

◦文章が長くなると文字だけの表示になってしまい、集中力が失せることが見られました。

◦お話が終わったら簡単に次のお話にいけるようにできないでしょうか。

◦課題であった余暇活動が一つできました。ありがとうございます。

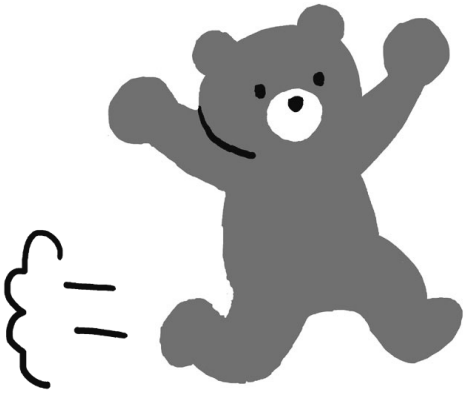
◦一人でできる余暇活動になるように、文章理解が深まるように活用を続けてまいります。モニターにして頂き、ありがとうございました。

◦「わいわい文庫　活用術①」の冊子がよかったです。

◦活用術の冊子が分かりやすくて参考になりました。

◦表紙のポスターをつけて頂けて初めて開けた時にとても嬉しく思いました。

◦子どもが読みたい本をわいわい文庫にして下さりありがとうございます。文字が小さくて見えなくてあきらめていたのですが、読める本が増え、とっても嬉しそうに喜んで読んでいます。



2013年度の調査結果にみるマルチメディアDAISY図書利用の現状と課題

専修大学文学部
准教授　野口　武悟

はじめに

公益財団法人伊藤忠記念財団（以下、伊藤忠記念財団）では、2011年度より、マルチメディアDAISY図書「わいわい文庫」の製作と寄贈を行っています。寄贈先は、全国の特別支援教育を行っている学校（特別支援学校や、特別支援学級を設置する小・中学校など）、障害者サービスを行っている公立図書館などです。

これまでに寄贈した「わいわい文庫」の利用状況と利用者の意見を把握し、よりニーズに応じた作品製作につなげることを目的に、伊藤忠記念財団では、昨年度に引き続き、2013年度も二つの調査を実施しました。

一つは、全国で唯一、すべての特別支援学校（12校）が寄贈を受けている島根県を対象に実施したアンケート調査、もう一つは、大阪市立中央図書館などで実施した利用者モニタリング調査です。回答のあった利用者モニターは21人でした。

この二つの調査の結果（88 ～ 98ページをご覧ください）をもとに、昨年度の調査の結果とも適宜比較しながら、マルチメディアDAISY図書利用の現状と課題を整理したいと思います。

アンケート調査の結果から

まず、島根県の特別支援学校を対象としたアンケート調査の結果からは、特別支援学校における利用の現状と課題を次の四点に整理できます。

（1）マルチメディアDAISY図書を「知らなかった」と回答した学校は12校のうち９校でした。昨年度の調査では12校のうち５校でしたので、「知らなかった」と回答した学校が増えています。ここには、担当者の交代などが関係しているものと思われます。

（2）マルチメディアDAISY図書が在校児童生徒の読書に「役立つ」「少し役立つ」と好意的に捉えている学校は12校のうち11校で、昨年度よりも1校増えました。実際の利用場面のうち「授業」での利用は、昨年度同様、半数以下の学校にとどまっています。「授業」での利用を促すた

めには、「国語の教科書の内容があるとよい」「楽器の図鑑のようなもの（がほしい）」などの教職員の意見をふまえた作品製作をさらに進める必要があるでしょう。一方、「利用していない」と回答した学校は昨年度の４校から２校に減少しています。

（3）マルチメディアDAISY図書の保管場所は、学校図書館が12校のうち９校でした。昨年度よりも２校増えています。一方で、担当者個人で保管している学校も昨年度より減少したとはいえ３校あります。担当者が個人で保管するのではなく、学校図書館の所蔵資料として位置づけて、学校全体で利用できる体制を整える必要があります。

（4）今年度から「わいわい文庫」採録作品の原本の表紙を一覧にしたポスターを「わいわい文庫」のCDと一緒に寄贈しています。しかし、「活用している」と回答した学校は３校にとどまりました。この３校では、「児童生徒が作品を選ぶときに、絵（表紙）を見て選ぶことができてよい」「どんな作品があるか、視覚的にわかりやすく見ることができてよい」など、ポスターを有効に利用している様子がうかがわれます。しかし、残りの９校では、「適した掲示場所がない」「添付してあったことを忘れていた」など利用には至っていないようです。ポスターの活用法についても本冊子や伊藤忠記念財団のウェブサイトで紹介していく必要があるでしょう。

モニタリング調査の結果から

次に、利用者モニタリング調査の結果からは、個人利用の現状と課題を次の三点に整理できます。

（1）マルチメディアDAISY図書を週１回以上利用しているモニターは21人のうち９人（42.9％）でした。昨年度は、18人のうち６人（33.3％）でしたので、増えています。その一方で、「ほぼ利用していない」と回答したモニターが５人（23.8％）いました。こちらも、昨年度の２人（11.1％）から増えています。利用していない理由は、「新しい環境の中でバタバタしてしまい、なかなか利用できていない状況」「６年生で忙しい。なかなか時間がとれず残念」などモニター側の生活環境に関するものと、「最初は利用していたが、あきたようだ」「興味のある本を全て読んでしまった」など「わいわい文庫」採録作品に関するものとに大別できます。後者の解決には、ニーズにあっ

た作品をさらに増やしていく必要があるでしょう。

(2) マルチメディアDAISY図書を利用するようになって読書時間や読書への意欲が「向上している」と回答したモニターは21人のうち10人(47.6%)で、昨年度の18人のうち8人(44.4%)と大きな差はありませんでした。一方、「変化は感じない」というモニターは11人(52.4%)で、こちらも昨年度とほぼ同様でした。子どもの変化(発達)は短時間で捉えきれるものではありません。効果の評価については、5年、10年という長期的・継続的な調査が必要ですし、客観的に効果を評価するための指標づくりも必要でしょう。

(3)「わいわい文庫」採録作品については、昨年度と同じく、多くの希望が寄せられています。幅広い年齢層や読書興味に応えられる多種多様な作品の製作が求められます。

さらなる利用の促進に向けて

以上の現状と課題をふまえつつ、マルチメディアDAISY図書「わいわい文庫」の利用を促進するためには、次のような取り組みが期待されます。

(1) 認知度を向上する取り組み

(2) 利用事例を紹介する取り組み

利用を促すためには、まずは、教職員や保護者にマルチメディアDAISY図書について知ってもらうことが欠かせません。アンケート調査の結果からも明らかなように、担当者が入れ替わったりするだけで認知度は低下してしまいます。また、すでにマルチメディアDAISY図書を知っている人や利用している人のさらなる利用を促すために、利用事例などを積極的に紹介し、知ってもらうことが大切です。

認知度の向上や利用事例の紹介には、講演会や講座、研修などを教育委員会や大学などと協同しながら継続的に実施していくことが有効でしょう。

伊藤忠記念財団では、すでに「読書バリアフリー研究会」という講座を実施していますが、可能な限り、実施回数や開催場所の拡大が期待されます。同時に、昨年度から発行している本冊子や伊藤忠記念財団ウェブサイトでの情報発信の一層の充実も期待されます。

(3) 調査・研究の取り組み

マルチメディアDAISY図書に関する調査・研究が教育学、心理学、福祉学、出版学、図書館情報学、情報工学など関係する各方面から盛んになることが期待されます。そのためには、上記(1)(2)の取り組みは、対研究者にも欠かせません。とりわけ、利用の促進

という観点からは、マルチメディアDAISY図書利用の効果についての調査・研究の活性化が重要です。

（4）多種多様な作品を製作する取り組み

学校の授業での利用から個人の学習や読書での利用にいたるまでの多様な利用場面や、乳幼児から青年・成人までの幅広い年齢層の読書興味に応える作品の増加が期待されます。そのことが、さらなる利用の促進につながっていくからです。

もちろん、このことは「わいわい文庫」だけではなく、すでにマルチメディアDAISY図書の製作に取り組んでいる他の団体や出版界全体にもいえることです。マルチメディアDAISY図書以外にも、さまざまな形式の電子書籍が普及しつつありますが、アクセシビリティ機能（文字の拡大や音声読み上げなど）の面では、マルチメディアDAISY図書に現時点で勝るものはありません。こうした点からも、マルチメディアDAISY図書普及の意義は大きいといえます。

最後に、伊藤忠記念財団には、「わいわい文庫」事業の一層の推進と発展を期待しています。